

金沢城調査研究所年報 14

(令和2年度)

令和3年6月

石川県金沢城調査研究所

目 次

I 組織と運営

1 組 織	1
2 委 員 会	1
3 職 員	4
4 分 掌 事 務	4

II 事業報告

1 金沢城調査研究事業	5
2 金沢城資料収集・デジタル化事業	15
3 金沢城情報発信事業	16
4 その他の事業	19
事業費	29
石川県金沢城調査研究所日誌（抄）	30
金沢城に関する新聞報道	31

I 組織と運営

1 組織

(1) 沿革

平成13年7月、石川県教育委員会事務局文化財課内に設置された金沢城調査室は、平成19年4月に改組し、石川県金沢城調査研究所となった。平成14年度から本格的な調査研究事業に着手し、令和2年度は19年目となる。



(2) 根拠法令

学校以外の教育機関等設置に関する条例 第2条

名 称	位 置	事 業 内 容
石川県金沢城調査研究所	金沢市	金沢城の調査研究及び普及に関すること

2 委員会

(1) 金沢城調査研究委員会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点等から、書面にて令和2年度の調査研究事業計画、及び事業成果等について報告等を行った。

(2) 金沢城調査研究専門委員会

例年、絵図・文献、建造物、埋蔵文化財、伝統技術（石垣）の分野ごとに会議や現地調査を実施し、各調査研究事業に関して、指導・助言を受けている。なお、埋蔵文化財と伝統技術（石垣）は相互に密接に関連することから、会議等は合同で行っている。

絵図・文献専門委員会は第1回を令和3年3月2日に、埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会は第1回を令和2年11月19日、第2回を令和3年3月12日に実施した。ただし、建造物専門委員会については新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点等から開催を見送った。

(3) 金沢城調査研究関係機関連絡会

例年、関係各機関の代表者を招き、今後の調査研究事業の計画、最近の主な成果（刊行物等の紹介など）等を報告等しているが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点等から本年度は開催を見送った。

【関係機関】

公益財団法人 前田育徳会

公益財団法人 成巽閣

東京大学埋蔵文化財調査室

金沢大学附属図書館

金沢市文化財保護課

金沢市立玉川図書館

石川県立歴史博物館

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

金沢城調査研究委員会委員名簿（◎委員長）

氏名	役職名	備考
◎平井 聖	東京工業大学名誉教授	建築
中村 利則	京都造形芸術大学大学院客員教授	建築
飛田 範夫	元長岡造形大学教授	庭園
吉岡 康暢	国立歴史民俗博物館名誉教授	考古

金沢城調査研究専門委員会委員名簿（◎専門委員会委員長）

分野	氏名	役職名
絵図・文献	◎宮崎 勝美	元東京大学史料編纂所教授
	袖吉 正樹	金沢市立玉川図書館近世史料館司書
	竹松 幸香	前田土佐守家資料館学芸員
建造物	◎中村 利則	京都造形芸術大学大学院客員教授
	河田 克博	名古屋工業大学名誉教授
	籠 和善	名古屋工業大学教授
	増田 達男	金沢工業大学教授
	吉田 純一	FUT 福井城郭研究所顧問
埋蔵文化財	◎吉岡 康暢	国立歴史民俗博物館名誉教授
	久保 智康	京都国立博物館名誉館員
	千田 嘉博	奈良大学教授
	森島 康雄	京都府立丹後郷土資料館資料課長
伝統技術 (石垣)	◎北野 博司	東北芸術工科大学教授
	市川 浩文	佐賀県地域交流部 文化・スポーツ交流局 文化課文化財保護室 文化財調査担当係長
	金田 明大	国立文化財機構奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長
	西形 達明	関西地盤環境研究センター顧問
	宮里 学	山梨県観光文化部 山梨県埋蔵文化財センター 副主幹・文化財主事

3 職員

名誉所長	北垣聰一郎
所長	木越 隆三
副所長	橋木 英道
＊	富田和氣夫
担当課長	石野 友康
＊	滝川 重徳
＊	柿田 祐司
主幹	大西 顕
＊	西田 郁乃
企画管理専門員	坂谷 知信
調査研究専門員	安中 玲美
＊	荒木麻理子
＊	加藤 克郎

企画管理専門員	空 良寛
所主査	大西 泰正
主任主事	川名 俊
主事	加藤 江莉
非常勤嘱託	岩井紀美子
＊	知田真衣子
＊	矢部 史朗
＊	笠松 一美
＊	広田 美幸
＊	小倉 沙姫
＊	供田奈津子
＊	玉鉾 美智

4 分掌事務

- ・ 所事務の総括に関する事
- ・ 調査研究の総括に関する事
- ・ 所員の服務に関する事
- ・ 公印の管守に関する事
- ・ 調査研究委員会等の運営に関する事
- ・ 発掘現場の労働安全衛生に関する事
- ・ 関連部局との連絡調整に関する事
- ・ 絵図・文献の調査研究に関する事
- ・ 「編年史料」等の編纂に関する事
- ・ 普及啓発に関する事
- ・ 城郭庭園等の総合研究に関する事
- ・ 埋蔵文化財の調査に関する事
- ・ 鼠多門・鼠多門橋の埋蔵文化財調査に関する事
- ・ 二の丸御殿の埋蔵文化財確認調査に関する事
- ・ 石垣保存管理技術等の総合研究（石垣カルテを含む）に関する事
- ・ 施設・物品・出役の管理等に関する事
- ・ 記録資料及び出土品等の収蔵管理に関する事
- ・ 資料の保存管理・公開活用に関する事
- ・ 情報化の推進に関する事
- ・ 石垣保全に伴う確認調査に関する事
- ・ 埋蔵文化財資料（遺構・遺物等）の集成に関する事
- ・ 「研究紀要」等の刊行に関する事
- ・ 電子情報発信に関する事
- ・ 伝統技術（石垣）の調査研究に関する事
- ・ 関連城郭等との連携に関する事
- ・ シンポジウムの開催等に関する事

Ⅱ 事業報告

1 金沢城調査研究事業

(1) 総合研究事業等

ア 城郭庭園等の総合研究－切石積石垣確認調査－

事業概要

本事業は、埋没している初期の切石積石垣を発掘して、出現期の実態（場所・意匠・技術等）を明らかにすることで、外観や意匠を重視した「見せる石垣」が生み出された技術的・社会的背景を探ることを目的とする。

今年度は平成 29、30、令和元年度調査の出土品整理作業（洗浄・記名・分類・接合・実測）を公益財団法人石川県埋蔵文化財センターへ委託して行った。



調査箇所位置図 (S=1/2,000)



数寄屋屋敷北 (H29)



玉泉院丸南東 (H30)



玉泉院丸北 (R1)

イ 石垣保存管理技術等の総合研究

事業概要

文化財石垣の保存・管理に必要な技術や方法等について、総合的に調査研究し、金沢城石垣の保存継承に資することを目的とする。

令和2年度は金沢城内の石垣の保存状態について詳細調査を継続するとともに、調査成果のとりまとめを行った。また、石垣保存管理技術等に関する検討会を行う。

事業内容

① 石垣の保存状態に関する調査

a 変形動態に関する調査

- ・三次元データの差分比較による経年変化量の面的把握

対象：数寄屋門台石垣（H20とR1）、本丸北（H24とR2）、三ノ丸北西（H16とR2）

b 内部変形に関する調査

- ・これまでの調査で取得した記録データの整理

対象：水ノ手門続、本丸南、三ノ丸北、東ノ丸階段、いもり坂脇、数寄屋敷西堀縁、土橋門西、薪ノ丸

② 石垣保存管理技術に関する検討会の、現地指導の開催

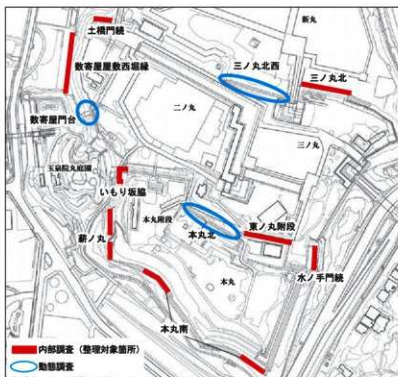
- ・石垣保存管理技術等に関する全国動向や、最新の研究状況等について検討会を開催。

〔第17回〕令和3年3月13日（土）

「石垣計測と数値解析について」小山 倫史（関西大学）

- ・石材の保存状態に関する現地指導

令和3年3月16日（火） 星野 玲子（鶴見大学）



調査箇所位置図 (S=1/5,000)

変形動態に関する調査

数寄屋門台石垣は、孕み出しは確認されなかったが、差分比較では石垣下部が前方に、上部が後方に変位しており、面的に倒れている傾向が伺えた。この石垣は玉泉院丸北堀縁石垣（6420W）を基盤とするため、今後これらの動態も含めた検討が必要である。

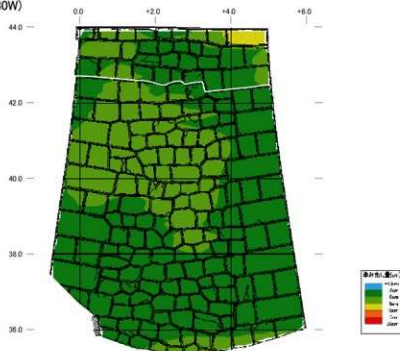
本丸北石垣は、明治期に石垣を断ち切って造られたレンガトンネル周辺の間知石積部分に局所的な孕み出しが確認された。差分比較の結果、レンガトンネルにおいて変位の進行が認められたが、全体としては安定状態を保っていることが確認された。

三ノ丸北西石垣は、石垣中央部にある石組暗渠改修範囲の石積（A）が後方に窪んだ状態であったが、改修時に丁張が変わった可能性がある。差分比較では、モザイク状に不自然な色の変化が生じているが（図中赤囲み）、これはH16の計測精度に起因する誤差であろう。

数寄屋門台石垣 (2830W)

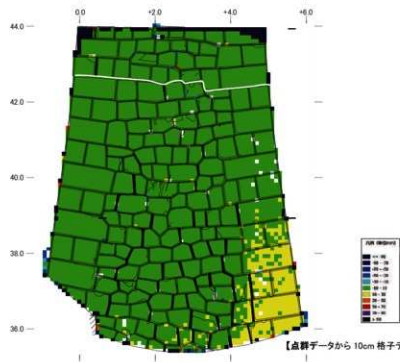
孕み出し量図

(R1 計測データから作成)



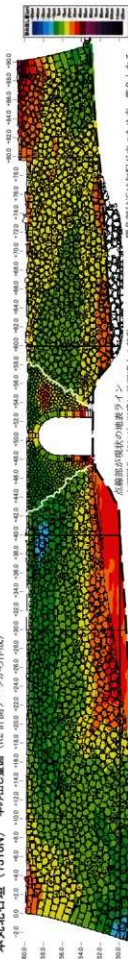
経年変化量図

(H20～R1の変化量)



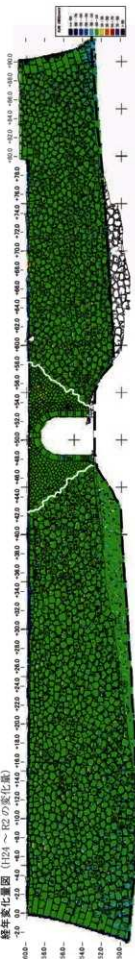
【点群データから10cm格子データを抽出】

本丸北石垣 (1310N) 積み出し量図 (R2 計画ターガ中心作成)

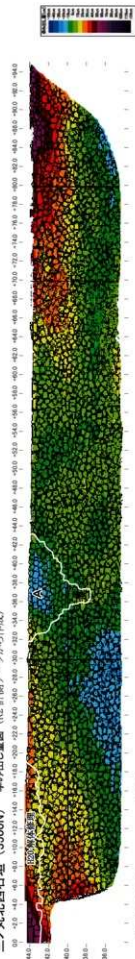


点雲面が現状の地表ライン
 立面図化 (1119) 以降に前面盛土の移動
 図面部分足は今後の仮定による

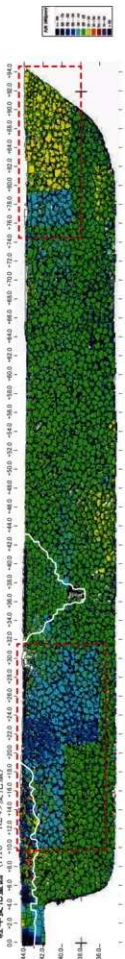
経年変化量図 (124 ~ R2 の変化量)



三ノ丸北西石垣 (3500N) 積み出し量図 (R2 計画ターガ中心作成)



経年変化量図 (116 ~ R2 の変化量)



ウ 金沢城関連城郭等との連携

事業概要

金沢城及び金沢城関連城郭・城下等の調査研究に携わる機関が一堂に会して、調査研究に係る情報やその成果を共有し、相互の助言や協力等を行うことで、調査研究手法や技術等の向上を図るとともに、金沢城及び関連する城郭や城下等の特徴や、さらにはそれらの歴史的価値についての理解をより一層深めることを目的として実施している。令和2年度は、金沢城跡確認調査の見学、金沢城と富山・高岡地域の瓦に係る報告について、情報連絡会を開催した。

事業内容

情報連絡会の開催

・情報連絡会参加機関

金沢市文化スポーツ局文化財保護課埋蔵文化財センター	(金沢城下地)
七尾市教育委員会事務局スポーツ・文化課	(七尾城地)
小松市にぎわい交流部観光文化課	(小松城地)
加賀市観光推進部文化振興課	(大聖寺城地)
白山市観光文化スポーツ部文化財保護課	(舟岡山城地)
富山県富山市教育委員会事務局埋蔵文化財センター	(富山城地)
富山県高岡市教育委員会事務局生涯学習・文化財課	(高岡城地)
東京大学埋蔵文化財調査室	(加賀藩邸)

・連絡会の内容等

連絡会は2回開催し、その内容は下記のとおりである。

第1回（見学会） 令和2年11月20日 金沢城跡

・金沢城跡二ノ丸確認調査・丸の内園地石垣保全にかかる確認調査の現地見学

第2回（報告会） 令和3年1月28日 石川県教育・自治会館

・「金沢城と富山・高岡地域の瓦」

報告者 「金沢城」石川県金沢城調査研究所 滝川 重徳

「富山地域」富山県富山市教育委員会事務局埋蔵文化財センター 野垣 好史

「高岡地域」富山県高岡市教育委員会事務局生涯学習・文化財課 田上 和彦



第1回 見学会の様子



第2回 報告会の様子

エ 「金沢城編年史料」等の編纂

(ア) 事業概要

第1期事業の成果を踏まえ、第2期事業では、総合的な編年史料集の編纂事業を行うこととしている。令和2年度は「文化五年 御造営方一件留帳」の編集作業を行うとともに、関連史料の調査を行った。

(イ) 『文化五年 御造営方一件留帳』の編集・刊行

文化5年（1808）正月の火災で焼失した二ノ丸御殿の造営事業に関わり、御殿焼失から造営事業の準備段階の内容をもつ高島厚定著「御造営方一件留帳」（全5冊、金沢市立玉川図書館蔵）の編集作業を進め、「文化五年 御造営方一件留帳」と題して「金沢城普請作事史料」の1冊に加えた。



金沢市立玉川図書館（加越能文庫）蔵「御造営方一件留帳」(表紙)

〔参考〕『文化五年 御造営方一件留帳』の内容構成

1. 仕様 A5判 240頁 並製本
2. 内容構成
 - (1) 凡例
 - (2) カラー口絵
 - (3) 本文 *史料の翻刻
 - 第一冊 「二之御九御焼失一件留」(47丁) [文化5年正月15日～3月18日]
 - 第二冊 「二之御九御殿等御造営一件」(35丁) [文化5年4月12日～4月29日]
 - 第三冊 「二之御九御殿等御造営主附御用一件」(28丁) [文化5年5月1日～5月14日]
 - 第四冊 「御城御焼御石垣之分 御届方」(2丁) [辰(文化5年)普請奉行の焼失石垣書上]
 - 第五冊 「二之御九御造営二付惣様図帳銀高留」(10丁) [年未詳、造営の箇所ごとの見積]
 - (4) 解題
 - (5) 索引 (事項索引・人名索引)

(ウ) 調査

金沢市立玉川図書館を中心に、『文化五年 御造営方一件留帳』関連の調査を行った。



金沢市立玉川図書館（加越能文庫）蔵「御家老方諸事覚書」③（文化5年正月15日条）

- ・ 藩の家老役前田道濟（織江）の職務日記で、文化5年の金沢城火災についても詳細な内容をもつ。

(2) 継続発展調査事業等

ア 絵図・文献調査

- ・玉川図書館や石川県立図書館などに所蔵される金沢城下町や金沢城関連史料について調査を継続した。
- ・幕末から明治にかけて活躍した森田平次（柿園）家の家譜（『柿園日記』全8冊、石川県立図書館蔵）を調査した。
- ・森田平次（柿園）筆。表題に日記とはあるが、家祖三郎左衛門から平次にいたる家譜（取載年代は天文12年から明治41年）で、平次の一代記部分は誕生部分を記載する第3冊から死の直前を記載する第8冊に及ぶ。
- ・御細工所に関する史料「御用内留帳」（全57冊 加越能文庫 細工奉行有沢武貞の職務日記）の解説に着手した。
- ・享保9年（1724）から享保19年に及ぶ職務日記で、かつて金沢美術工芸大学で解説したが、史料集として刊行するまでにはいたらなかった。ただし本史料を用いての詳細な研究成果として「加賀藩御細工所の研究（一）（二）（金沢美術工芸大学美術工芸研究所発行）がある。



石川県立図書館蔵「柿園日記」七（明治2年11月18日条）

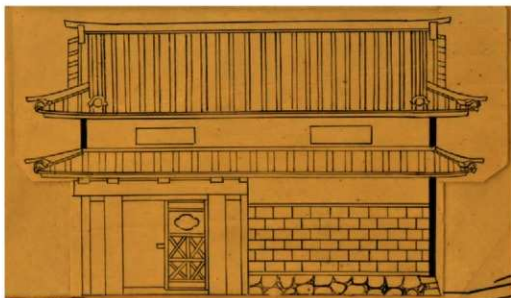


金沢市立玉川図書館（加越能文庫）蔵「御用内留帳」⑭

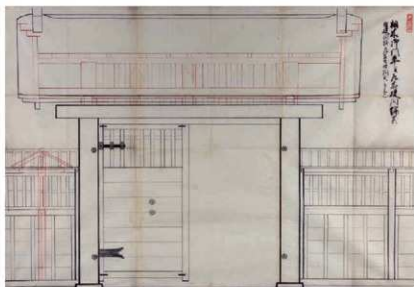
イ 建造物調査

・城門の調査

平成 30 年度に作成した基礎資料としての「金沢城 城門図面集成」に基づき、金沢城の城門に関する調査成果の整理に努めた。



金沢市立玉川図書館（加越能文庫）蔵
「金沢城建物起絵図 甲号（縮尺約百五十分一）」2（松坂門部分）



金沢市立玉川図書館（大友文庫）蔵
「二ノ御丸及桐木御門等絵図 桐木御門平并左右狭間堀図」

ウ 金沢城埋蔵文化財資料集成

事業概要

金沢城に関する絵図・文献、埋蔵文化財、建造物、石垣等の資料については、整理・収集を行い、データベースを構築し、保存・活用を図ることとしている。

本事業は、埋蔵文化財資料のうち出土品について集成を行うものである。

事業内容

a 出土品資料集成

- ・各報告書において、個別に報告されている出土品資料（実測図や写真・観察表）を集成し、種類ごとに分類する。
- ・本年度は、土器・陶磁器について作業を進め、4,076点の集成を行った。

b 出土品写真撮影委託

- ・金沢城の特徴を示すと考えられる出土品を抽出し、図録等の高品位印刷に耐えうる高精細なデジタル写真の撮影を行う。
- ・本年度は土器・陶磁器、木製品等について、撮影委託により実施し、291点の出土品について撮影を行った。



品名	数量	材質	形状	用途	発見場所	発見時期	発見者	発見状況	調査者	調査日	調査場所	調査内容	調査結果	調査報告書	調査写真	調査表	調査備考
土器	100	土	丸底鉢	食器	九層堀	1970年代	調査員	発掘調査	調査員	2010年	九層堀	調査	調査結果	調査報告書	調査写真	調査表	調査備考
陶磁器	200	陶	茶碗	食器	九層堀	1970年代	調査員	発掘調査	調査員	2010年	九層堀	調査	調査結果	調査報告書	調査写真	調査表	調査備考
木製品	50	木	土師器	食器	九層堀	1970年代	調査員	発掘調査	調査員	2010年	九層堀	調査	調査結果	調査報告書	調査写真	調査表	調査備考
その他	100	その他	その他	その他	九層堀	1970年代	調査員	発掘調査	調査員	2010年	九層堀	調査	調査結果	調査報告書	調査写真	調査表	調査備考

出土品資料集成



出土品写真撮影委託

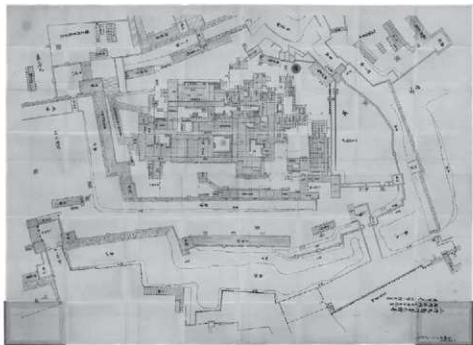
2 金沢城資料収集・デジタル化事業

事業概要

金沢城資料収集事業は、金沢城に関連する城絵図、城下町絵図等の絵図資料の写真撮影を進め、金沢城調査研究の基礎資料として、また情報発信のデータバンクとして活用するため、平成14年度から継続的に進めている事業である。

絵図資料のデジタル化

デジタル化（デジタルデータ化）によって、原寸では難しかった微細な文字情報等の判読といった絵図資料の解析が容易になる。本年度は、金沢大学附属図書館蔵「金沢御城御普請の絵図並奉書」、金沢市立玉川図書館蔵「金沢城二之丸座舖之図」、石川県立歴史博物館蔵「金沢城座敷之図二之丸」・「金沢城絵図幅」につき、スキャンニングによるデジタル化および複製品の作成を行った。そのほか金沢市立玉川図書館蔵「二之丸御殿建物指図」についても、スキャンニングによるデジタル化を行った。



金沢城二之丸座舖之図（金沢市立玉川図書館蔵）

3 金沢城情報発信事業

事業概要

調査研究事業の成果を情報発信するために、刊行物として研究紀要及びパンフレット、金沢城史料叢書として『文化五年 御造営方一件留帳』、『金沢城跡—鼠多門・鼠多門橋Ⅱ—』の2冊を刊行した。

また、「金沢城大学」・金沢城シンポジウムの開催、金沢城ARアプリの運用、現地見学会や講師派遣等を行った。

(1) 研究紀要・パンフレット・史料叢書等の刊行

① 研究紀要『金沢城研究』第19号（A4判104頁800部）

内 容

【特集】金沢城シンポジウム「近世城郭 金沢城の成立—本丸御殿の時代—」

報告1	絵図・文献からみた初期金沢城	石野 友康
報告2	初期金沢城の本丸とその周辺	滝川 重徳
報告3	初期金沢城の新丸・三ノ丸	柿田 祐司
報告4	石垣からみた初期金沢城	富田和気夫
報告5	聚楽第・伏見城と初期金沢城	森島 康雄

パネルディスカッション

【論文】

城下に移った近世金沢坊と大名前田家の公認	木越 隆三
初期金沢城の諸問題	
一尾山・加賀征伐・高山右近の言説をめぐって—	大西 泰正

【研究ノート】

加賀八家の屋敷構成について	庄田 孝輔
近世中期加賀藩主前田家の学問と儒者	池田 仁子

② 金沢城調査研究パンフレットNo.19「利常・綱紀の城づくり」

③ 年報13（令和元年度）（A4版30頁600部）

④ 金沢城史料叢書39『文化五年 御造営方一件留帳』（A5版240頁700部）

⑤ 金沢城史料叢書40『金沢城跡—鼠多門・鼠多門橋Ⅱ—』（A4版500頁600部）

(2) 金沢城大学

城と庭の探究講座「金沢城大学」 全て〔公開講座〕

会場 石川県立美術館ホール（第1・2回は石川県文教会館ホール）

回数	実施日	講 座	講 師
1	10月24日(土)	報告1 利常・綱紀の城づくり	石川県金沢城調査研究所 石野 友康
		報告2 二ノ丸造成と庭園整備	石川県金沢城調査研究所 滝川 重徳

2	10月24日(土)	報告3 寛永・寛文期の石垣普請	石川県金沢城調査研究所 富田和気夫
		報告4 近世城郭の御殿建築	名古屋工業大学教授 麓 和善
		パネルディスカッション 「近世前期の金沢城 —利常・綱紀の城づくり—」	司会：石川県金沢城調査研究所 所長 木越 隆三 パネリスト：講師4名
3	11月5日(木)	兼六園の樹木散策	金沢城・兼六園研究会 幹事 越野 洋
4	11月19日(木)	近代における「旧藩」の叙述と顕彰 —加賀藩はどう語られたか—	金沢市立玉川図書館近世史料館 学芸員 宮下 和幸
5	12月10日(木)	金沢城と富山・高岡地域の瓦	石川県金沢城調査研究所 滝川 重徳 富山市教育委員会 野垣 好史 高岡市教育委員会 田上 和彦
6	12月17日(木)	鼠多門の建築的特徴 ～復元工事の観点で～	株式会社 金沢伝統建築設計 代表取締役 森田 守
7	1月21日(木)	京の文化に魅せられた前田利常	石川郷土史学会 幹事 横山 方子
8	1月28日(木)	兼六園の『謎』について	金沢城・兼六園研究会 名誉会員 加藤 力
9	2月4日(木)	金沢城の復元・整備	石川県土木部公園緑地課
10	2月18日(木)	加賀藩士のしるし	北陸大学国際コミュニケーション学部 教授 長谷川孝徳

(3) 「金沢城ARアプリ」運用

金沢城や兼六園に関する調査研究の成果などを「歴史・文化プレミアム情報」として配信するスマートフォン用解説アプリ「金沢城ARアプリ」を運用した。

(4) 講師派遣

- *金沢市退職校長会「かなざわ学講座」(10/9)
- *石川県教育委員会・石川県埋蔵文化財センター
「令和2年度発掘報告会 いしかわを掘る」(3/7)

(5) 金沢城シンポジウム

金沢城調査研究事業の成果を踏まえて、「近世前期の金沢城」をテーマにシンポジウムを開催し、調査研究で得られた金沢城の新たな価値と特徴を広く県内外に発信した。当日は県内外から約280名の参加があった。

- 期 日 令和2年10月24日(土)
- 会 場 石川県文教会館ホール(金沢市尾山町10-5)
- 主 催 石川県・石川県教育委員会
- 主 題 「近世前期の金沢城 —利常・綱紀の城づくり—」
- 対 象 一般県民、全国の城郭愛好家及び研究者等

10月24日(土)	9:50～15:50		
9:50		会場、受付	
10:30		開会	
		主催者挨拶	徳田 博(石川県教育委員会教育長)
10:35～11:15	報告 1	石野 友康(石川県金沢城調査研究所)	「利常・綱紀の城づくり」
11:15～12:00	報告 2	滝川 重徳(石川県金沢城調査研究所)	「二ノ丸造成と庭園整備」
13:00～13:40	報告 3	富田和氣夫(石川県金沢城調査研究所)	「寛永・寛文期の石垣普請」
13:40～14:30	報告 4	籠 和善(名古屋工業大学教授)	「近世城郭の御殿建築」
14:40～15:50	パネルディスカッション		「近世前期の金沢城 ―利常・綱紀の城づくり―」
15:50		閉会	



パネルディスカッション

(6) 金沢城絵図の活用促進

金沢城造営の画期である前田綱紀の時代に関係する絵図を対象に、高精細な複製品を作成し、シンポジウムに合わせて展示を行った。

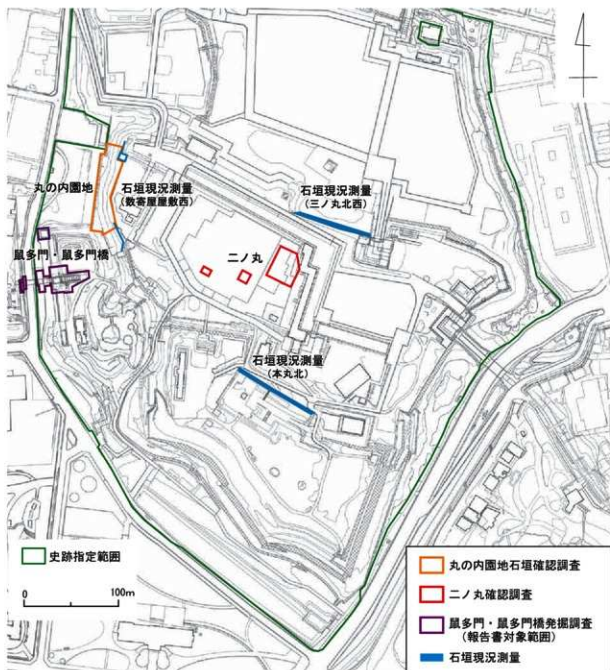
4 その他の事業（金沢城公園整備等に伴う調査等）

（1）事業概要

令和2年度は、金沢城公園整備事業（県公園緑地課所管）に係る丸の内園地石垣保全に伴う確認調査、二ノ丸確認調査、鼠多門・鼠多門橋の報告書作成を行ったほか、石垣現況測量を実施した。

丸の内園地石垣については、石垣保全工事に先立ち遺構保存を図る上で必要な情報を取得するため、詳細地形測量、地質調査、発掘調査を行った。二ノ丸については、遺構の遺存状況・内容確認のため、発掘調査を行った。鼠多門・鼠多門橋については、平成26年度から30年度にかけて実施した埋蔵文化財調査の成果のうち、鼠多門橋の遺構及び出土遺物等について報告を作成・刊行した。

石垣現況測量については、数寄屋屋敷西、本丸北、三ノ丸北西石垣の三次元計測を実施した。



(2) 丸の内園地石垣保全に伴う確認調査

調査の概要

近年顕著に変形が進行している丸の内園地石垣（数寄屋屋敷西堀縁石垣）保全工事に先立ち、石垣背後の斜面等の現状を記録し、適切な遺構保存を図る上で必要な情報を取得するため、①現況地形の詳細測量（三次元計測）、②斜面のボーリング調査、③斜面裾から石垣上面にかけてのトレンチ調査を実施した。

調査にあたっては、金沢城調査研究埋蔵文化財専門委員会委員及び伝統技術（石垣）専門委員会委員の指導を受けた。

調査期間：令和2年5月26日～12月18日 調査面積：1,800㎡（トレンチ60㎡）

現地指導：令和2年11月19日

調査の概要

発掘調査に先立ち、①詳細地形測量（現地作業：5/26～8/7）を実施し、斜面部の微地形や石積み等を記録化した。また②地質ボーリング調査（現地作業：7/1～8/11）を実施し、過年度ボーリング調査成果と合わせて、旧地形の把握や斜面造成等の範囲・内容を確認し、斜面の保全工事の詳細設計に役立てることとした。

③発掘調査（現地作業：8/18～12/18）では、トレンチ調査（4カ所）を実施し、数寄屋屋敷西堀縁石垣の昭和53年修理に伴う裏込層の範囲を確認した。裏込層は円礫を主体とし、幅は石面から約2mである。また同裏込層の背面で近代の石垣修理に伴う裏込層や江戸後期の整地土を確認した。堀縁石垣背後の斜面では、石垣を確認（T3・T4）した。石材は戸室石の自然石を多用するが割面や金沢城石垣編年3期（元和年間頃）に類する石材（刻印石あり）も使用されている。根石や根固め栗石を覆う整地土には18世紀末頃の遺物が含まれており、江戸後期に築かれた土留石垣と推定される。土留石垣はT2までは延びないことを確認した。



丸の内園地石垣の現況



T 4 調査区全景 (南西から) 昭和53年解体修理範囲の北端を確認



T 4 土留石垣 (西から)

層序の大別と想定される時期 (写真中の番号と一致)

- | | |
|---------|----------------|
| ① S53以降 | ② S53(修理) |
| ③ 近代 | ④ 江戸後期(18世紀末頃) |



T3 調査区全景 (北西から)



T3 土留石垣 (西から)



T3 南壁土層断面 (北から)

石垣修理に伴う裏込層を土層断面でも確認



T2 地層検出状況 (西から)

土留石垣確認されず



T1 調査区全景 (南から)

昭和53年解体修理範囲の南端を確認

(3) ニノ丸確認調査

調査の概要

金沢城ニノ丸は、近世前期以降、金沢城の中枢部であり御殿が設けられていた。今回の埋蔵文化財確認調査は、遺構の遺存状況・内容等を確認し、今後の保存・活用に資することを目的として、3地点の発掘を行った。

調査にあたっては、金沢城調査研究埋蔵文化財専門委員会委員及び伝統技術（石垣）専門委員会委員の指導を受けた。

調査期間：令和2年7月2日～12月18日 調査面積：1,000㎡
現地指導：令和2年11月19日 現地公開：令和2年12月5日

調査の概要

(ア) 第1地点

御殿の北東部（唐門・表式台北・実検ノ間付近）にあたる。この付近は、これまで発掘調査が実施されておらず、御殿の範囲を確定する上で重要な区域である。

調査の結果、現地表から約1m下位で、明治14（1881）年の火災で廃絶した御殿の地盤（遺構面）を検出した。建物の柱を支えた礎石自体は撤去されていたが、礎石の安定を図るため堅固に作られた基礎を確認した。今回精査した範囲は、絵図との照合から、「表式台」北辺及びその北側の「広縁」北辺に対応すると考えられる。文化5年（1808）火災後の御殿再建にかかる「御造営方日並記」には、表式台や虎ノ間、竹ノ間（大広間）等において「四尺六方（幅・深さ約1.2m）」に穴を掘り、栗石を入れて搦き固め、礎石基礎としたことが記されており、検出した遺構の状況と概ね整合している。この他調査区南東では平面六角形の拵を検出した。

御殿の地盤は、廃棄された瓦等とともに埋立てられ、嵩上げされていた。埋立土の上面で旧陸軍により設けられた馬場の遺構を確認した。この他、昭和3（1928）年の馬場廃絶後に建てられた会議室のコンクリート基礎を検出した。

(イ) 第2・3地点

第2地点は表向主要部と台所の境、第3地点は表向と御居間廻りの境にあたる。両地点とも石川県教育委員会・金沢大学が昭和44年度に実施した発掘調査地点の一部に相当する。

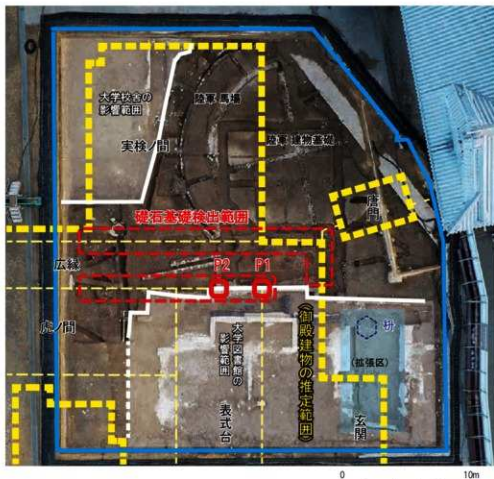
今回の調査では礎石・石室・くぐり抜け階段（第2地点）、石製樋・溜（櫛）（第3地点）等の遺構を再検出し、公共座標に基づく位置情報等を取得した。



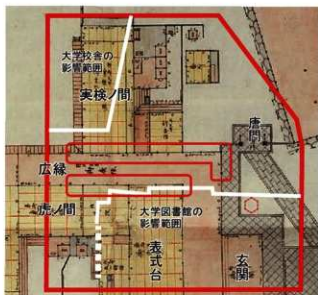
調査地点遠景（西から）



調査地点配置図



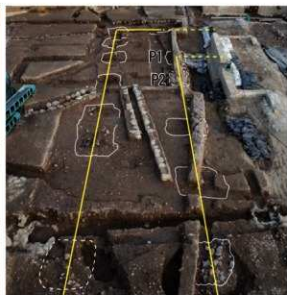
第1地点平面 垂直写真



遺構の位置と絵図

「金沢城二之御丸三步基図B」(部分・加筆)

石川県立図書館蔵



礎石基礎列(西から)

広縁北辺・表式台北辺に対応

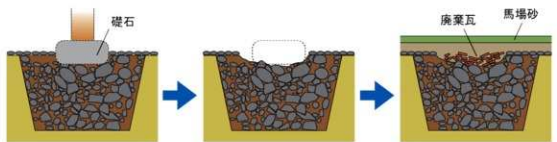


礎石基礎P2断面



礎石基礎P1断面

幅1.2～1.4m、深さ約1mの略方形の穴を掘り、川原石や戸室石の割材を詰め込んで礎石の安定を図っている。



御殿存続時
~明治14年(1881)

礎石抜き取り

礎石基礎埋立

明治14年(1881)頃
※馬場造営…明治後半以降

礎石基礎 廃絶過程概念図

0 1m



柁（玄関北側）

平面六角形の柁で、凝灰岩製の側壁の一部が遺存



近代の遺構（馬場・会議室）



第2地点（南から）



第3地点（南から）

(4) 埋蔵文化財調査報告書の刊行

『金沢城跡－鼠多門・鼠多門橋Ⅱ－』

平成26～30年度に実施した金沢城公園整備（鼠多門・鼠多門橋復元整備）に伴う埋蔵文化財調査報告書の第2分冊を刊行した。前年度刊行の第1分冊では、鼠多門復元整備に係る遺構を中心に報告し、本書では下層遺構や出土遺物及び鼠多門橋について報告している。

『金沢城跡－鼠多門・鼠多門橋Ⅱ－』

A4判 500頁、部数 600、令和3年3月31日刊行

『金沢城跡－鼠多門・鼠多門橋Ⅱ－』目次	
例言	凡例 目次
第1章	経緯と経過
	第1節 概要 第2節 調査に至る経緯 第3節 調査の経過
第2章	位置と環境
	第1節 金沢城と周辺の歴史的環境 第2節 金沢城の沿革 第3節 鼠多門（玉泉院丸）の沿革 第4節 既往の調査成果
第3章	調査の概要
	第1節 調査の目的と対象区域 第2節 調査の方法
第4章	鼠多門の調査
	第1節 概要 第2節 下層遺構 第3節 鼠多門周辺の遺構 第4節 近代の遺構 第5節 出土遺物
第5章	鼠多門橋の調査
	第1節 概要 第2節 橋脚遺構 第3節 玉泉院丸西法面石垣 第4節 出土遺物 第5節 鼠多門橋の変遷
第6章	自然科学的調査
	第1節 概要 第2節 分析結果
第7章	地質調査
	第1節 概要 第2節 調査の成果
第8章	総括
	第1節 鼠多門について 第2節 鼠多門橋について 第3節 玉泉院丸について
引用・参考文献 報告書抄録	

事業費

令和2年度（最終予算額）

（単位：千円）

事業名	事業費
金沢城調査研究所運営費 （金沢城調査研究委員会の開催等）	8,593
金沢城調査研究事業費 総合研究 ・城郭庭園等の総合研究 ・石垣保存管理技術等の総合研究 ・金沢城関連城郭等との連携 ・『金沢城編年史料』等の編纂 基礎的調査研究 ・絵図・文献の基礎的調査 ・建造物の基礎的調査	6,967 101
金沢城資料収集・デジタル化事業費 （絵図撮影等）	710
金沢城情報発信事業費 （史料叢書、研究紀要等の刊行、 金沢城シンポジウムの開催等）	3,490
合 計	19,861
その他の事業費 ・金沢城公園整備に伴う調査	140,204
合 計	140,204
再 計	160,065

石川県金沢城調査研究所日誌（抄）

（令和2年）

- 4月3日（金） 絵図・文献調査開始（金沢市立玉川図書館）（～3/31）
- 4月13日（月） 「石川県緊急事態宣言」を発出
- 7月2日（木） 二ノ丸確認調査（重機掘削着手）（～12/8）
- 7月13日（月） 二ノ丸確認調査（作業員による調査着手）
- 8月5日（水） 金沢城二ノ丸御殿関連調査に係る現地指導（中村神社）
- 8月18日（火） 丸の内園地石垣保全に伴う確認調査（作業員による調査着手）（～12/18）
- 10月9日（金） 講師派遣（金沢市退職校長会）
- 10月11日（日） 金沢城調査研究委員会委員 中村利則氏逝去
- 10月24日（土） 金沢城シンポジウム「近世前期の金沢城－利常・綱紀の城づくり－」
- 10月29日（木） 金沢城石垣保存・整備指導会（丸の内園地石垣）
- 11月12日（木） 金沢城二ノ丸御殿関連調査に係る現地指導（中村神社等）
- 11月19日（木） 第1回埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会
二ノ丸、丸の内園地石垣の埋蔵文化財確認調査に係る現地指導
- 11月20日（金） 第1回金沢城関連城郭等情報連絡会
- 11月25日（水） 発掘調査現地確認（指導・輪島市大釜西法寺跡）
- 12月3日（木） 金沢城二ノ丸確認調査現地説明会（報道向け）
- 12月5日（土） 金沢城二ノ丸確認調査現地説明会（一般向け）
- 12月11日（金） 史跡金沢城跡保存活用計画策定委員会
- 12月12日（土） 金沢城二ノ丸御殿関連調査に係る現地指導（中村神社等）

（令和3年）

- 1月28日（木） 第2回金沢城関連城郭等情報連絡会
- 3月2日（火） 第1回絵図・文献専門委員会
- 3月7日（日） 講師派遣（発掘報告会「いしかわを掘る」）
- 3月12日（金） 第2回埋蔵文化財・伝統技術（石垣）合同専門委員会
- 3月13日（土） 石垣保存管理技術等・丸の内園地石垣の保全に係る検討会
- 3月16日（火） 金沢城石垣に係る現地指導
- 3月21日（日） *

金沢城に関する新聞報道

(令和2年)

- 5月8日(金) 金沢城鼠多門／囲い撤去、3週間で完了(北國新聞)
- 5月13日(水) 金沢城鼠多門／囲い撤去作業／屋根お目見え(北國新聞)
- 5月17日(日) 金沢城鼠多門／威容現す／復元整備足場ほぼ解体(北國新聞)
- 5月21日(木) 金沢城鼠多門／尾山神社側も足場解体(北國新聞)
- 5月29日(金) 鼠多門橋姿現す(北國新聞)、鼠多門橋お目見え(北陸中日新聞)
- 6月24日(水) 金沢城二の丸広場埋文調査着手／年度内に整備基本方針(北國新聞)
- 7月4日(土) 二の丸広場掘削始まる／金沢城、御殿復元へ遺構調査(北國新聞)
- 7月11日(土) 鼠多門・橋幻想的に／18日からライトアップ(北國新聞)
- 7月18日(土) 鼠多門・橋が完成／きょうから利用開始(北國新聞)、鼠多門内部公開／きょうから一般公開(北陸中日新聞)
- 8月9日(日) 手作業の発掘始まる／金沢城公園二の丸広場調査(北國新聞)
- 10月17日(土) 金沢城石垣コケ除去／レーザー測量へ準備(北國新聞)
- 10月25日(日) 利常と綱紀の城づくり学ぶ／県が金沢城シンボ(北國新聞)
- 10月29日(木) 金沢城二の丸御殿天井画発見／金沢・中村神社(北國新聞)
- 11月14日(土) 二の丸遺構半世紀ぶり姿／県金沢城調査研究所が調査(北國新聞)
- 11月30日(月) 金沢城二の丸御殿210年ぶり基礎出現／県発掘調査(北國新聞)
- 12月4日(金) 二の丸御殿遺構公開／基礎部分や排水施設、石室(北國新聞)、金沢城基礎部分を発見／二の丸御殿復元へ一歩(北陸中日新聞)
- 12月5日(土) 金沢城礎石基礎発見／きょう一般向け説明会(毎日新聞)

(令和3年)

- 1月1日(金) 二の丸復元／金沢城公園の主な復元整備事業(読売新聞)
- 1月3日(日) 金沢城二の丸御殿／3～5期に分け整備(北國新聞)
- 1月4日(月) 金沢城二の丸御殿復元事業／新年度に着手(北國新聞夕)
- 1月5日(火) 金沢城二の丸御殿復元／新年度に事業化(北國新聞)、金沢城二の丸御殿復元整備／「表向」玄関など1000坪先行(北陸中日新聞)
- 1月6日(水) 金沢城二の丸御殿／復元へ知事「機は熟した」(朝日新聞)
- 1月20日(水) 二の丸「表向」復元へ／玄関や大広間、書院／県が検討(読売新聞)
- 1月26日(火) 金沢城発掘調査成果伝えるパネル／県文教会館で展示(北國新聞)
- 1月31日(日) 二の丸御殿復元期待／県歴史文化会議セミナー(北國新聞)
- 2月14日(日) 2021年度いしかわ施策／金沢城二の丸御殿復元基本設計着手／表向の正面周辺／「総仕上げ」の第一歩(北國新聞)
- 2月17日(水) 20周年で記念式典／金沢城調査研究所(北國新聞)
- 3月17日(水) 金沢城二の丸御殿復元基本方針固まる(北國新聞)

金沢城調査研究所年報14

(令和2年度)

令和3年6月 発行

編集・発行 石川県金沢城調査研究所

〒920-0918

石川県金沢市尾山町10番5号

電話 076-223-9696 FAX 076-223-9697

E-mail kncastle@pref.ishikawa.lg.jp

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/bunkazai/kanazawazyo/index.html>